

第78回日本生化学会大会

細胞工学 共催モーニングレクチャー

CELL TECHNOLOGY

もうひとつの分解系

オートファジーの反撃

Counterattack of Autophagy, Another Degradation System

講師：水島 昇

東京都臨床医学総合研究所タンパク質代謝プロジェクト

日時：10月21日（金）朝 8:30～9:10

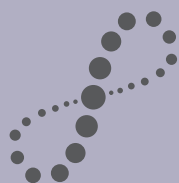
会場：F会場（神戸ポートピアホテル 偕楽1/3）

Summary

1955年、リソソームの発見。まもなく、細胞質成分はオートファジー（自食作用）によってリソソームで分解されると誰もが信じるようになった。ところが1980年代、思わぬ刺客が現れて立場が一変した。ユビキチン・プロテアソーム系の台頭である。そのエレガントでかつダイナミックな選択的タンパク質分解系は、一躍脚光を浴びることになった。それまでの主役オートファジー・リソソーム系にはつらい時期が始まった。確かに大雑把でつかみ所のないオートファジーは、地味な存在として映ったのだろう。

しかし、オートファジーは目覚めた。あえて沈黙を守っていたかのごとく、ついに私たちの前にその重要性を見せつけたのである。常に細胞内の新鮮を保証し、老廃物の蓄積を許さない。必要とあらば自分を食べてでも飢餓と戦う。細胞内に微生物が侵入すれば照準を定めて攻撃する。これだけではない。オートファジーを支える分子群までもが、今まさに頭をもたげつつある。本レクチャーではオートファジーの反撃をわかりやすく紹介する。

みなさまのご来場をお待ちしております!!



株式会社 秀潤社

「細胞工学」編集部

TEL: 03-5281-0551 (代) FAX: 03-5281-0550

URL: <http://www.shujunsha.co.jp/>